



雅語譯解



服部文庫
117
448



つちよこすけおーしーたをを
あま子ひ乃たううう鈴木眼ぬし
さびくおさくをさかーつけ
いとゆきまらふにあされくは
しも離屋なるをふけ細佳妻か

もあまもあまあまあまあま
はあまあまあまあまあま
いしあまあまあまあまあま
あまあまあまあまあまあま
あまあまあまあまあまあま
あまあまあまあまあまあま

の物あり。物狂えーを物
くるわーとよぶが如ー

いひあ〜ん

イハウヤウモナイ
ゴンゴドウダンナ

いもん〜の〜あー〜ふ〜の〜あー

共小上と
同と

いま

タツタイでガタハるをあり。追ッ付ケハ未来ニ
イニマニとも譯
まどー。これ小現主の今をあてせて。ふか〜俗語と同とあり。

は外
ふ

いまひとら

モヒトツとよぶあ
とら叔の今あり

いづこ
ゴド

いづく

ドウイフトコロ
何トイフトコロ

いづら

ドレド
ウジヤ

いづ

ち
ドツ
チヘ

いのでハせん

ドウナルモノヂ
ヤゼヒガナイ

いでや

イヤ
モミ

いで

イヤモ
ミドレ

いでく

ドレ
ドレ

いさ

ドウ
カ

いさや

イヤサきもドすむ。
トのいざとハ異あり

いざ

アサ

いざあふの
いざあり

いづーの

イツ
ニヤラ

いのに

らん

ドノヤウニカミデア
ラウサゾミデアラフ

いのに

ドウヂヤ
て切と付

いらへ

いつき娘

ヒサウ
ムスメ

いちをやし

スバ
ヤイ

いたけは

幼き
あり

いはけ

若輩ニ上とら〜ある詞と
様回とあり。はれ外ゆもあり

イ

○ニ

いじじ エライキツイ善きゆ
いじじ にも悪きゆふもゆ
いじじ キツイ
い ヒドウ

い イツ
い ヒドウ
い キツイモンチヤ痛
い エライヒドイ

いらかく ケシカラ
いと ヒト
いさめ ヒト

いさむ セイタ
いさかく イツソコ

いぶせ 悪き物を見聞し悪き事を思ひかどいて
い 心よりぬさまあり
い ウルサイ

いのめ エラウ大
いかき心 あはれ
い

ま 不吉
いぶか フシナトクト
い

た 手負病人を介抱するやく大切にして念を入るさか
た 又ワツラフ
た 又ワツラフ

い 勤功小よりて昇進御加
い せしめ終ふをふ恩
いまめ 御加

花ヤカナ ハテナ
いま免く 風リウ
いひあ メク

い ヒニイ
い ヒヤフ
い 功ラヘテ井ル

い センガナ
い イムダ
い 女ノ兄弟を男よりい
い ふ姉妹小かく

ひば

ラチノアカヌ今俗心つてなれどフガヒナイナレデモナイモノと今俗心つてなれどフガヒナイとフハ即此詞あり

いぬ

いハ子イルヨコニナルありレ子ラ又レ又

やまぐぬ

ユツクリト子イルいとぬハ詞別ある故ハ聞にてはをその入

いざと

目ガハヤイ上のヌカアい

そか又いませかり

と少ヤんごとおれ人のいとかとまあくておたーまけんあるべし
漢をハ在しくありお又ハいませかりさかーがるまどのかるお

いので

ドウゾシテテスドウガナメキ

いぬ

ダシヌカレル尤チ十ヤ刻抄ス尽しり

キコエタ
チヂヤ

いしま

時モアラウニすてゑもの心此外も皆今チイウ今同ト又今デモと譯

いさかふ

アラソヒヤフ俗語ハ大方同一いさハ否ありかふハかえすあり

いづまにづけても

イヅレニシテモモノシリ故実シヤ

にか

行カリク有識あり又文字の死穢ニアフイ

いうそく

心をたふしてたゞ堪能ノゲイシヤ
のすもあつハ精ト入るものあり

いらくぐ 寒き時鳥
肌立

いどむ ヤハリ いどと アラ
ソヒ

いもぬ 忌居たり精
進してある

いさよふ 喜ばしき月
のさよひ同き

いひそす

いくそづく

いや免

いなる 月日をへても懸一さのやま
でいとと海からあつさまこ いや免のけー丸

ナニダガ
チナチイ

いでぬ デ井
ザシキ

いやーうも カリソ
メニモ

いらぢるー 古ハツちぢるーとい
へり明白ニ著明あり いひけつ イヒコ
ナス

いへとじじ 内儀 いさを キガ
ウ いさを

いさまー だけいのあり いたさを
人 手ガウモノ
忠勤モノ

ろ部

ろちう ま 論おくこイフ
ニオマバズ勿論

ろろささろ 綴
の字

音ヨて六
位の服ニ

ロ

五

は部

はつあ

ワヅカ かまうあ
いさくうまうま

○はふまて

流浪
シテ

○む

あうん

俗のホカスホオルハ此詞の將あり
ヤリツバナレニスル
ステモノニスル

○はえ

菜
くまをくし

花ヤカナク
ワイケイナ

○ちたか

ツキモ
ナイ

思ガクナイ
ツキホガナイ
ヒヨレナ
フツガフナ
フサウオウチ
フツカナ

○ちたか

コレハ
ヒヨレ

ナフトスヲ
スヲタウワクサ
コマラセル
セル
イヂメル

ちた

ヒヨレチモノ
ちた
小同トまき竹取物

語

○ま

イヨクコリヤ
五葉三
山ノ下風のきむ
けくふ
けさ
やこ
ひも
どが
ひと
里
移
ん

夕バシハタ
日本後紀十八
宣命常政有
關バカ
夕神道
城ア
レバ
此
二ツハ古語の
とく本ハ
影
ての
ま
と
同
ト
田中道
麻呂ハ
後

よハヌ
と
同
ま
あ
ま
り
云
く
は
く
ハ
云
て
今
ヤ
ト
テ
モ
コ
レ
モ
ツ
ケ
と
ワ
ふ
こ
ろ
あ
り

○はぐか

遠慮
スル

○か
ア
マ
シ

イロクキ
ヅカヒナ

○はう
け

ウチモナイ
ナシ
デ
モ
ナイ

物
の
な
ら
う
あ
ら
ん
定
ア
ら
な
ら
う
あ
ら
ん

○は
う
け

ナニ
ゲ
オ
ワ
チ
ヨ
ト
ツ
イ
チ
ヨ
ツ
ト

○は
う

を
し
し
ト
メ
井
ル

○は
う
む

俗語ト同
ま
本ハ
羽
合
よ
ま
を
ま
た
と
ま
る
羽
合

○たぶと

本語きたり井マ
小遣在ありスル

云こ小侍

デゴザリマス
物の様

云こ志侍

仕リマス
皆蒙へ詞あり

○はやく

イワカ
先年

不ツトマヘカ
タツ以前

○ま〜あ

イガガ
ワルイ

○はらぎた

か〜
腹ハ心と
云小回ト

○まやアか

テアライ
テゾヨイ
まあり

○もて

アゲク
シマヒ

○はつ

教あるハのこ〜
まつるハマツクニナル〜

あ〜と〜
詞皆因と

○もぐ〜げ

キガオケル
アツハレナ
キツカイナ
人のこ

のとけぬきまをツひ。又ゆるもすぐれたるをもツふニツ
とも小わがごころのまぐ〜く。あましく此物あれバニ

○はが

ひ 右左の羽根の行もぐひたををふかひ
ハか〜く。なぐお根をツふハ俗語

○もつる
ホツ
レル

おのゝ糸の揚よ
えある〜あり

○はらか

同腹の足先〜後ハ
同後あり〜

○を

ら〜ら〜

ツコレン
ガワルイ

○はらめく

バラツク
雨
の音のたひ

○たま〜り

カラリトシテ井ル
額の廣きやうの教

○はげます

せカ
せル

激怒せ〜
むるあり

○も〜

母のこ〜
祖母をも〜

○ば〜ぞく

ゾウク 字音とき
こゝまゝハ未審

○ち系おろむ 狂き
根あり

○云く

ををちちては 云くヲ
ケテハ

○はぎにあぐ 云く
ハ腫

あぐべー。本居翁云く小物を取
又するをかくいひあぐべー

○まきばか

云くホド云々
スルクヲ井ニ

○をひり カトグチ
這入あり

ちど ツイ
ワコ **たなま** 花のぬめぬめ
イをいふて云

に部

にくー スカ
又

○にくげ 風

スカ又

○にげあー 不相
應

にげあぢ不ど フサウオウ
ノ年輩

○にやひ 香氣の外ニはむいとつふゆほり。梅山吹など花
の色。又ハ美人乃わちの俗小愛き。ノゲこがれ

とつふやうあるをいふれあり。つふよいはれぬうつさのま
か質をえあるけけをいふくされ。毛つや光あをた時

ふりてハ 上のまきて活
語ふあれ

○にやひやか

花ヤカ
愛うし

○二の町 ニノ
キリ

○にがむ ウルサ
ガル

○に

ニ

ハ

よふ ウカ 呻吟 ○にふー ムル井 ○にくーの

ニウラ レイ ○庭もせふ云云 庭モ獲シトハイニ云々ト云々トあり。道もせふ。野もせふの取皆同

し。後ハハ誤りて。庭のす 庭のす。地のす。とせり

ほ部

ほのく ボオツト曙 のちの回廻 ほのの たうあ ほのめ

かま ウスくケブラ ヒナシラセル ○ほど 位も時よふあまのいふ時ふてまゝするほどハ云々スル

ウチ アビドノア ほど カサウ ○ほのげ カリ

アビドノアカリ デニタアリサニ ○ほろげ ホトケ ○ほ

ん 本の字ニ ○ほく チガ ○ほく ヘテ

む ニウコリトワラ ○ほど 過去の附 ○ほく モチウトテステ

ドウヤラ ワルワレタラ 殆字をホトドと ノコニ現を未來のト現 ほど

あやふく 莞東 ○ほい 本意の ほど 思ひさる親の

ホ

の九

○ほろく バラ ほろくけて バラくト サセル ○ほだ

一 邪二足手 トトヒ ○ほと ア ミ を む チカ ヅク ○ほけ ト

里 老ボレタ トボケタ と云源氏 常友の巻 ほきたり ほけく

ほけ さま ○ほて 相撲の セキトリ あり ○ほん を

やう 性トク 本性 ○不 い づ クチ へ 出 ス カク ○ほ の

ら カラリ ほ が か 又 不 が り く と ○ほ の

へ部

へつ つ り 石川雅望云 曾丹集 よ 二 所 見 え り へ ○へ ト

す え て 同 人 云 著 集 よ 又 え り り ○へ と つ く 俚語の やう を

へ た ハタ 海 濱 を ほ べ と ○へ つ ら よ

へ つ ら 鈴屋翁云 すべて は 河 が お り へ つ く ○へ つ ら よ

と部

ところろせー

キウツツナ
バセニナ

ところろせく

ダ、ビロウ
仰山ニ

ところろせきやぞ

オキバノナイ位ニ
パイニヒロカウテ

ところん

チビレ
ダ中

今商人の得意と云詞
即是下も轉リ成る

とハに

常佳

とききん

かたを
万代
不易

とこととえに

イツモカ
ハラズ

と

とき免く
時所見来

時を得て用らるるんハヤル出頭
寵愛ニアフ又ム子ガドキツク

と免

かゝる

御寵愛ア
ワバス

とかく

ナンノカノト
イロクト

とよむ

ドンド
ト云

とよみふかる

トット一座ノ大
徒ヒニナル

とみあうこえる

アキラニタリコチ
ラ見タリシテニル

とり

どりふ

メイクク
リクニク

とのね

御夜詰ト
マリバン

と

がふー

云カガ
ナイ

とこと

急トハ
疾あり

としこ

精進
カチ

とりあを

つひあすく俗徒のまは大方固ト俗行ハ患
きをよれ小のひあすのこ小用るを雅而てハよ

きを免きふひな
す方ふ多く用る

ととらもなし

ハイ
キ

とむの

ト

ト

ト

マ レバウク
ノウチ

○とだえ

中絶
トギレ

○ともすれむ

何ゾト
イフト

○とぶらふ

見

とぶらひ

ミテヒ使て物
を掃るるをも

ソノチ。俗語の
ヒ小すて同ト

○とあまさかいら

ソキカライラヌ
セワ世有聞集又

えと

○とこをふる

夫婦離縁
まゝあり

○とが里

鷹野

○とぢ免

ヒ

とぢむ

フ

○とあもち

て 必死
ニ

○とりのこ

養子

○とるる

俗小足てとる
かどつよとるに

同いき
るあり

○とごろく

ドロウクとごろハ今ドンドと
つふが如く。時津波などの意

○云くどち

何ド
ウレ

○とをく

ヒツク
魚あり

○時しもあま

時節モアラフコト
ギヤニサレ合セテ

○とめく

跡よアア
ぬまらる

ち部

ちぎる

ヤクソ
クスル

ちぎア

契ヤクさきの世の約束のん
の時。宿世と云小同ドク
シヤ

持し勝る
まじり

ハセインエレインダワ

クワハウの心ふるまう

て又ゆるまはめ
てよ兒人をいふ

○ちこのおとり上のう

○ちお七

乳母
なり

○廳ちやう

役所

○ちことどろ

石川雅望云沙石
集小尺えより俗

語小
同ド

○ちアミむのり

一面ス
コシ

○ちアミかふ

マチラ
カラモ

コチラカラモ
ラリニチル

○ぢ

暮よぢとあるハ
今ハふせきまぢ

○ちやうず

打換スル
いハ懲ずるてもあらん

△

ぬ部

ぬきぎぬき

ムニツヲウチルぬぬちちともふ
ふるきぬきあていせお侍もええり

ぬのづく

ハイフクスルぬハ顔
つくハ衝心て地をつく

ぬアごめ

ナニ
ド

ぬるむ

水のなま温ふる身ぬるむと云侍あり
倦かこりてとけゆるやうあつとふべ

ぬ

る

ぬだすべ

源氏権の巻ふだかの侍か
かをぬきすべとありとある

をぬぎすぐらかしてきまぬをきせゆるやう
くとつふん今俗筆エヌキとつふは回し

又

る部

る

族類之イチゾク
チスジ子孫

を部

をか

常語と同ーが
かーとハ別々

をち

遠き所をを
ズツトムカフアツチ

をち

アチ
コチ

をちか

アツチ
ノカ

を

をへて

時迄て
イッ
マデモセツク

をさく

ミツカリ
トメ井ル

を

さく

大抵可ナリニをさく云々せずと下
おとふ細ある時をアマリイカフ

をさか

幼少の翁より轉りて人の若輩あるも又ハ
未熟してラチノアカヌころあもあれ

をさ
氣丈
ナ

雄々仁体
時キツト男ラシイ

をちのへる

アトモド
リスル

を

井ルスワツテ井ル居ありのつまりなるもの
りあてとまるるをハトへつく時のことむ

をこの

ま

アホウ
ラシイ

をこめきて

ダウチガ
カツテ

をこ

を

をこハ本俳優の戯むるめきをツツいて
憚アふくかめ
てあきと勇むへききを善くし俗は尾籠とツツハけか

ルヲ

〇十四

をこ

アヒルを声ふよるるあり

ワルビヤレナス井サシナコシヤクナ

アホウラシ

イフニナロ

道を行よマカウテ

とよ雅語あり

○をこふあつぬべー

○をがむ

オジキスル 拜スルを
まがむのつまりを

○を折れて

○をこぶる

ダマシテソ
ビキダス

○をこ

つひ

○をのく

オドロク
ルイスル

○をり

きあし

○をりびんふし

ジセウガフ
ツガフナ

○をこ

こをうふ

本ハ少男少女のゆゑ特ドてすての男女を
ソふ又色情の交あるをソふと云り

わ部

わづのふ

ヤウク始テ又
俗語又同

○わたり

三途川

○わくくばよ

タマサ
カニ

○わりあく

メウサウニ
ムシヤウニ

ムリ
○わりあかき

ナサケ
ナイ

○わりあくおほ

す

○わりあかき

ヨギナイサシウカへ
わりハことわりを

○わづらじ

心ヅカ
ヒナ

○わづら

ル

○わろもの 未熟 モノ わろー ハキトせヌ コレシナ ○わろ

どの 廊下 ○わろくー 表立ぬ一分の内流 ○わろり

云くわろまはわろりともいひて云くへこと云くごじ

をどづらとーちのらよ をりあてふ回ごま ○わきて 必あるまじき

ニコホヤトア 若輩ラシイ ○わくし 初進ラシイ ○わきご

イサウラシイ メイワクナ ○わびー ナニギナ ○わぶ カナシ

けく カツニ ノウツテ

わびーらん メイワク サウニ ○わあぐ をのくよ同 し又老人の

擁い声小物い ○わさらん トセイ 高賣 わさらん

トセイ イギ ○わすまごご 名をぬやふと あすのこご

加部

かご 舞のカ タアヒ手 ○かづふ カ ル ○かごド

けあ 勿体ナイ 恐シ多イ ○かけく 好色ガ マシイ ○こご

カ

十六

ぼ 容をどの十かふとのひよりー
さをまふとふきー
フデキ
○かる 遠の
○このま

がれ トホ
ノグ
○このれうふなる
トホノギ
カ、ル
○方

さる 場ヲヨ
ケル
○このさおひ
知ろして形のいま
このさ

あま 上と
同ま
○かあー
このくトタマフス面白きふも
ふも哀あるまもつとほーきあわい

ふこと
をこ
○かーづく 大ゆかり
て巻ふこ
○このひあー
かひハ
代りこ

廿二ガ
ナイ
○かやまー
此かちけうとーげち
かーまどのけは回じ
○かここと

ふ タガ
ヒニ
○かーにし
恐しオ小イ子リガタイ
又俗語と同
スグレタ 恐し入タ 意

かーこまる 恐し
入ル
かーこまり
恐し多イ僕
ツ、
サレヒカへ
こま

○かここと
ブテウハ
フダナ
○かろ
フソクイフイヒクサニスル
イヒタテル
イヒワケニスル

其物小か
づらる
○かいたま時
おそい
時小回ド
○かごと
かこちごと
こかこちま

かろけい
カヅクゴト
かごとおふ
フソク
ウケル
かごとをのり
ホドレキリ
まこのかぎまハ
云えノ分

申レワケ
バカリニ
○かぎま
あて是ハ人のかぎま
まのまのぬ限り

カ
〇十七

と心まうけあする人。后が**か**にも同。 **か**いも同。 **か**いも同。

同意あり。こもまのふがふの **か**にも同。 **か**いも同。 **か**いも同。 **か**いも同。

垣間見るハその中探みて必垣間ふか **か**いも同。 **か**いも同。 **か**いも同。 **か**いも同。

きくず。 **か**いも同。 **か**いも同。 **か**いも同。 **か**いも同。 **か**いも同。

からうじて **か**いも同。 **か**いも同。 **か**いも同。 **か**いも同。 **か**いも同。

かじの **か**いも同。 **か**いも同。 **か**いも同。 **か**いも同。 **か**いも同。

けつ兼官 **か**づけ兼官 **か**いも同。 **か**いも同。 **か**いも同。 **か**いも同。 **か**いも同。

かたご **か**いも同。 **か**いも同。 **か**いも同。 **か**いも同。 **か**いも同。

からうひ **か**いも同。 **か**いも同。 **か**いも同。 **か**いも同。 **か**いも同。

かへも **か**いも同。 **か**いも同。 **か**いも同。 **か**いも同。 **か**いも同。

かん **か**いも同。 **か**いも同。 **か**いも同。 **か**いも同。 **か**いも同。

かん **か**いも同。 **か**いも同。 **か**いも同。 **か**いも同。 **か**いも同。

かん **か**いも同。 **か**いも同。 **か**いも同。 **か**いも同。 **か**いも同。

かん **か**いも同。 **か**いも同。 **か**いも同。 **か**いも同。 **か**いも同。

かん **か**いも同。 **か**いも同。 **か**いも同。 **か**いも同。 **か**いも同。

ノ契約スル色事

ノセツヲタノム

ノセツヲタノム

ノセツヲタノム

ノセツヲタノム

ノセツヲタノム

ノセツヲタノム

ノセツヲタノム

ノセツヲタノム

ノセツヲタノム

ノセツヲタノム

ノセツヲタノム

ノセツヲタノム

ノセツヲタノム

ノセツヲタノム

紙後者を動するハ

家来ヨレカル

カリ

ニモ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

ドノミ

チニモ

ドノミ

チニモ

ドノミ

チニモ

ドノミ

チニモ

ドノミ

チニモ

ドノミ

チニモ

ドノミ

チニモ

ドノミ

ハナレ合テナ

ジニニナリ

ハナレ合テナ

ジニニナリ

ハナレ合テナ

ジニニナリ

ハナレ合テナ

ジニニナリ

ハナレ合テナ

ジニニナリ

ハナレ合テナ

ジニニナリ

ハナレ合テナ

ジニニナリ

ハナレ合テナ

セツカン

オトガメ

セツカン

オトガメ

セツカン

オトガメ

セツカン

オトガメ

セツカン

オトガメ

セツカン

オトガメ

セツカン

オトガメ

セツカン

ハナレ合テナ

ジニニナリ

ハナレ合テナ

ジニニナリ

ハナレ合テナ

ジニニナリ

ハナレ合テナ

ジニニナリ

ハナレ合テナ

ジニニナリ

ハナレ合テナ

ジニニナリ

ハナレ合テナ

ジニニナリ

ハナレ合テナ

こめきたる七子ツタ風
○シテ井ル神さび古雅ナ

○かへりまじりオ礼マ
○かうきくオ上りさうと

○かひせうえうカ殺
○かどオすまて

○かさやどカヤ
○楫枕カチマクラ

よ部
○よせアヅ
○よオ

よすがタヨリ所
○よせアヅ
○よオ

ろらびカ礼
○よろせずバワルウ
○よろが

ふヨロクトスル
○世のさが世ノサノ
○世のナラヒ

云ムル井ノ云ク
○世よもとい

○よーあナラヒガアル
○う心得ガアル

○あアガヲ
○うヤル

○あ種姓イヤ
○うカシぬ人

○あ仁休ラレイ
○う功者ラレイ

ヨ
○三

や ヨイハ
とをかり
もあり
○ 云く 世あし
この世ハ
時節

○ 大サ よごけく
○ 事 よごけく
○ レウ よ

どむ トゴコ
○ 夜 よべ
○ 世とハ夫 よづのず
婦の眉を

いへどされば色情をあしぬり。又ハ男女かこらひ
よれともいまゝのあしさをまづくと云ひ
よあれず

マダホ
娘 ヤ
○ 夜ガ夜 よたぎ
○ カイク よくとあく
トナク

○ ヨソヒ よそひ
○ ヨソホ よそほ
○ リウ よさ

至 今ハ
○ マケタ よとくも水
○ レ常程 よろ
○ 大テイ だや

サウオウナ 飲合ハ
たよきゆとすハ俗
○ サキガ長イ 云くよアけよ
けハハマカされ
るなり

○ 世籠まうく よごもれ
○ 又ウモレギデ井ル 秋をこめ

て マダ夜
○ 夜ナカ よごごち
○ スギ よがき
○ 通ふべき よがぬ

ぎさふ
○ 潔 よく
○ よたとりくらくこ よたぬ
○ ヨケル よけぬ

ゼヒト
○ ヨル 秋のふき
○ 縁下 金バク

ホル所
○ ヨ 秋のふき
○ 金バク 金バク

た部 た、ち、あ、く、と、ね、し、又、た、く、と、と、洗、く、
病、ま、い、の、聖、い

ためふ こ合せル
チ、ウスル ○たごふ ツレ
ダツ たごえて サニツ
ヘテ

○たどる 手取こく、たふをささうり、行こるん
ちし、ぬるをこ、色くと、思ふをこ云 ○たど

たどし 不案内ナ
豊東ナイ ○たどふ 云こ
ソバ、スナサル、といふるん

○たどく 云こ
と、だ、小
リトモ

○たどく 云こ
イハウヤウモナ
ウエラウヒドク

クワニタイナ、イカ、ナ、ニ、ラス、ニ、ナ、先師云、たどく、あり、たえ、ハ、た
コ、コ、少、て、不、正、奇、り、雅、望、云、た、ど、く、ト、き、奇、り、急、り、た、ど、く、と、ち、り、な、り

○たゆい タル
イ ○たゆむ ユダニ
スル たゆめて ユダニ
サセテ

○たゆ ル
キレ ○たえ アヒ
マニ ○たふ コラヘルモ
キコタヘル

○たぢろく グラ云
ツク 云のたぢろく 云
メキニ

○たぢ ま
と、ま、り ○たぢま た
ぢ、ま、り

どのたぢま 田舎人の物
テ、ネ、タ、ラ、ク、 ○たぢ 田舎人の物
声の濁るを云 ○たぢ チカラ
ガ、マ、ニ

夕

ウ思 **たのめて** たよせてタノ **たのむる** タノ

タノニ思 **たをやか** ニシ **たをやぎた** ニシ

トシテ井ル **たわく** ヒワ **たをやめ** ヒメゴセ

いふ **たむけ** 馬の鼻向のふとも **たつきおと** ヒメゴセ

本をきる声 **たむき** ニモ **た**

を廣刃の斧 **たむく** メツタニジヤウ **たむかる** クメ

たてまつ たてまつ **たつもけ**

ねるもたし 立テモヒヨニナモノス **たけ** スレ

利運 **たけ** タキタ **た**

けの アマリデキタ **たけあ** 半す

等 **たい** 急状 **たいせ** 切

たよ 幸リカテガリ手 **たぎ** ワクセク

父 〇二二三

○玉れ結をのよ ワヅカ
ノウチ ○たゆふ ウヂウ
ヂスル

○たぶさ 物をまづうしふするもの内をまふさハ
總ぬふてよふしをすぶるをうしあり ○た

づき テガ、リ
コシ、ナイ

れ部

例あれたる 例ハ格式
作法 ○例やう 常テ
イ ○例

あぶ ゴフ
レイ

そ部

そこら オホ
ク そこをく オホ
ク ○それのこ

ツノ昔 イセニ又ハむうのゆきを
みついでよソノセツとつふ時を ○そはうとなく

ドコヲレヤウド、イフ
モノクナニトナウムサト ○そひぶ 子マ、
トギ ○そ

ひふす ヨリカ
カル ○そむづひ けハ、くやそき
山道づゝひあり

○そづくし 不和あるさま、不和ある者正め
小ハ向ハむしを働目小く故 ○そバ

レン

レン

む ワキ見
スル

○そむらつき

ヨコ身ノ
アリサマ

○そごろに

何トナウ
△サト

○そほづ

ほづ
スレル

○そくのかけ

ス、メル
オ、タ、テル

○そくや

ソクと取
はことごと

○そほぶる

雨のシヨボク
フルふりふ

○そまうわり

源氏花宴巻、公事にてまうわるるニミ細そ
うハ公方の御用かとはハ出つてのうがえ

てかられ
おるを云

○そぼる

ソ、カ、レ、イ、と
ソ、ボ、ル、

○そくおぢれ

ソラト
ボチ

○そら目

ミ、ソ、コ
ナ、ヒ

○そよぶ

サ、ワ
ツ、ク

○そびやきたり

そびやうのうにたれん
せいガキヨイトタカイ

○そ

びゆ

ヌケア
ガル

○そよめく

サ、ワ
ツ、ク

○そもく

レタ

○そごろさむ

ソ、ウ、ツ、ト
サ、ム、イ

○そをぞ

ふ フ、レ、ナ
リ、ト、モ

○そよ

ソ、ヨ、

○そこひさ

ねめて深
きま

○そでつくたどのア

袖ノサキガチヨツト
ツク、ライ
浅ま

つ部

つ 舟ツ
 ○つと ヒシト 名目ふ
 ○つばらをり ま

アタル山道に鞍馬の山坂の名ふもあれ
 ○つらほき ホ、カラ

イバ 早朝
 ○ほと免て ヨリ
 ○つごふ 合フ
 ○つも

ミ タ、
 ○つゆをのり たごつゆとも
 ○つろを

す ツカハサレル 我よりやるををつらぬ
 ○つうさ ヤル

とく タイヤ
 ○つまね レラヌカホシテ井ル
ジイツト

ガコ 心ハタマラ子氏ムリニカシテカ
 ○つぎあー ハヌレラヌカホヌスル

○つら つれまーのつよりときとゆきともまハサー異

○つどふ ムゴイ、ウヨクナ
 ○つかまづ ウラメシイ、カナシイ

○つあびく ツトメル
 ○つじ うをふ

源氏細流子 アツメル
 ○つあびく アツメル

○つあびく アツメル
 ○つあびく アツメル

○つあびく アツメル
 ○つあびく アツメル

不相應ナ
フツガフナ
○つきあう〜ん云
ツリ
ヨウ
○つたあ

く〜
ヒヨニナ
デアツテ
○つづく
ニル〜と海する時つふハフ
ガ〜と海する
コ〜と海する

時つふハフ
ぶきあ〜
○つづく
ニル
○つむ
〜とかくま

く〜
○つきあう〜
ツ、レ、レ、フ、カイ
引こむ
袖引するま

心よて、ブーハ厨子
○つやく物もみえず
ア、
リ、

カト物モ
とエヌ
○つこゆき身
因果ナ
身ノ上
○ついで

いえ
弊の字よ
あ〜ま
○つきぐし
ニツコラレ
イ
むラレイ
洗

や、の
ハツキリト
あ〜やう
○つきせす
云
か〜をく〜
マ〜

○つぶやく
俗ゆ〜
小回〜
○つぶさ
メイ
サイ
○つき

ツカ
ツド
○つぎく
タイ
ク
○つ〜
〜

契沖云猫の爪を禡
時のやうふするを
○つこのま
チツト
〜

づゑ
ホ、
ヅエ
○つまはどたす
小くき物〜を見
す時のま〜

ツ
三十七

ついで

築地

○ついでむ

啄とかくつ
き食ひあり

○ついで

○ついで

続松く手レヨク
松火タイニツ

○ついで

○ついで

始終
云く

ぬ部

ぬんど

シレバウメコラヘテ
又ガセイオタレテ

ぬんど

コラヘ
カ子テ

○ぬぢけた

心のまがりの糸りてすくことせ
ぬを云 じヤギあるるく又源氏

空蟬卷小魚形の無難なるを
糸ぢけたる所ありといへり

○ぬび

年のよけてと
ついでと契沖

○ぬ

ウラニ
クイ

ぬたむ

ウラニガル
ニクガル

○ぬび

た

生長して形などの
よく調ひたるを云

○ぬぎ

犒慰
勞

○ぬ

きこと
神をいひ
願し

な部

なづき

シタレウナジム 古語をハウキタ
ダヨフ めちちを中古小特いたるく

○なづ

子ナ

。二十八

コシカラダク月日
ヲヘテ 行まニナツテ

ながらふ

年月ヘテモジツト
シテシナズニ井ル

あ

げの云

ザフトシタミ
チヨフトシタミ

なほ

ヤハリニダドウ
シテモトカクニ

なのさけ

恩愛ジヒ心
風雅ナコ、ロ

なさけあ

キガナイブフ
ウリウナ

なすけくし

子ゴ
ロナ

なよく

ヨワク
グニヤク

よか

ダンニヤリ
トヤハラカ

なよびう

ヤレワリ
シヤカナ

なぶのむ

ナガメル
ウツトリトメ井ル
又歌を
くたふるくさるあみ詠の字をよめり

あつの

スイタ
チジヤ

カハユラシイ
アイソ
ラシイ又俗語と同じ

なのく

ケツクナナカト小にも
のあるとさきも同とく

あまえこの

フウリウナ
シヤカナ

あまえく

セヤラ
ツク

なまめねかをん

タガヒニアギチヤル
ジヤラウツキ合ワ

あのみ

シカト
セ又

あのかをん

ナミ大テイデ
ハナク云く

あいま

云
云

未熟
ヘカタ
のさまり

あま入る

あま入る

あま

あまをゆし

あまを

十

二十九

まー
コメンダウチ
ハ教のあまとり河ハドウ
クト心ヅカヒナ
ヤラチウクリと云心なり
あ

まくの
ナ中ノ
ヘタナ
あまんある云
いあまはんあま
云の五文字へか

あ免
グサホ
フナ
あめげえ
御無礼
ラニイ

あいざしろ小云
シドクナウ云くとつふまか
るゆあり何るいりたるさまか

あおあふあにーあふ
其名ニ持テ井ル又
評判ノミニ名代ノ

あアいづ
陸進するあり
ヘアガルシダス
あざり

あづむ
トゴ
ホル
あむす
人を侮る
とシコナス

あぐさむ
心ガハレル
ム子チハラス
あぐさめ
キバ
ラシ
あな

あほ人
通例ノ身
ガラノ仁
あふく

あほえあ
ナシノモナウ
何ノザウサモナク
あほえあ

あは
ナニ
カヤト
あはす
イトイフキダ
あ

あは
ダマツテ
ハエ井ズ
あはす
其カデハオク
イトイフキダ
あ

+

。三十

アコリ
けのゆりたるをえ

何ホ
何れと
ナニヤ
カヤト

あぐさむ
心ガハレル
ム子チハラス

あほ人
通例ノ身
ガラノ仁

あほえあ
ナシノモナウ
何ノザウサモナク

あは
ダマツテ
ハエ井ズ

ほあ〜どごあ

ダニツテモ井ラレニイ
トギリヘニコトバ

あごあ

の 柔和

あごらの あごやりか
るたまは

あまごひ

に ゼヒナク
一ゲテ

あごふりもあは 云

ナンデモ
云 ナイニ

あべて 一統ニ
一トホリ

あべてあ〜ず

一トホリ
ナラズ あ

か〜ひ 縁家ア
ヒダガラ

あ 云 あれを

春かれづ 春デ
イハウナラあり

春かれバと
まことへ

あ 云 あべに 並はえそれと
同附ふあり

あにが

何ノタレワタクシ
ソンジヨソコ

あず〜ふ 猶

あず〜ひ

スロシ
オトリ 立
なん

そい道ふなん

ら部

ら〜し

功者ナカウノ入ツタ、キ
ラウハ本 学ハ
勞ハ仕宦の年功のことあり

云

ら ヨビ
らハナレギサウニ

ありさの〜らふハリコニサウニ 云
の〜らハカシコダテ云く
ら〜云くべらとのらもそれと同

らうた

カハユラシイムゴダ
ラシイ 勞マシ

らうがし

ラ

〇三十一

ムサクサトラツシガナイガヤクト
 ヤカマシイ 乱かま〜とよま〜
 物ニ心得功者ナル人

○らうある人

む部

むくつけし

ミグルシイオウロシイキミガワルイ尾
 張の田舎の詞ムワケタと云即是あり

むりく〜

上ホ 同

○むとく

無徳 あり

○むつ

かる

ハラタワ イリクム

○む糸つぶる

キガモメル タウワクスル

○むぬ

をつぶす

キヲモム

○むあつぶし

心ツカヒナ

○む

糸を〜る

キガイレル

○むつし

むつしげ

ムサクロシイ
 メンダウナ

○むげホ

一向ムクニ

むげく

一向ジマ

○むぢん

無心あり

○むご

石川雅望云無期
 在イワニデモ

○むぬ

と云云

オモニ云

む糸とある云

云

オモナ

○む糸

む糸し〜ぬ云

オモダヌ云

○むのひ火つく

ム

向ひ火を育る人の後立
時我も抜立てむとふをいふ

○む 孫もひーけてる也

物のつよふ
かがるをいふ

○むす

生するれ古語也 草むす 苔むす ハエル
ありむすこむす 免のむすも同意

○むかひ

テブラとよ俗語也 植松有信
云 新野のうつりあるべし

う、部

うけをりて

オレハ
レテ

○うこそあ

イヨク
ワルイ

うたてある云

ヒヨレナ
メイワクナ

うたて

ヒヨレナ
ヤ重クア

ニ
リ

○うもれし

ツレレデダニツテヲ
レバキウツニテワルイ

○うちつけふ

ソツレニサツキヤニ
ノフトレタ思ヒツキデニハカニ

○う

いろ

ウレロダ
テ後見

うしろむ

トリ
モツ

○うしろ

め

後目つとさきくウサニナ
キガユル
セヌ手放シテハア
ンジラレル

○うしろや

す

キヅカヒゲガナイ
まろめしのく

○うるん

キツト
井ル

美麗の心あれども
中古小將して也

○うるんむ

中ヨウ
スル

○う

ウ

つーろろ

シヤ
ウキ

うつー心もな

正ダイ
モナイ

うとまじう思ひある

アイサウ
ガツキル

うし

ろで

ウシロ
ツキ

うらちける

立入
ター

うちと

けん

ゴト
立入タ
セニサク

うるせく

キウトヨロレウ
るハ
くふね

うう

ウラ
ハラ

うらもあ

何ノワケ
モノウオ

クソコ
モノウ

うけふ

ノロウ
うけひ
うけん

う

けひく

兼引
スル

うづ

なウシイ
ツベラ
シカ

うす

源氏権巻
うす
きい
でき
て
玉小櫛
云古事
記中巻
ふ
ま
と
う
い
け
い
き
と
あ
る
と
同

うい

うかびて

ブカ
ツイ

テ
定らぬ
さまあり

うえ

うハ
其声

うら

云
ち

つけ
ふ
お
サツ
パリ
不
残
と
う
ら
わ
す
云
云
ツイ
見
ワ
タ
ス
云

ウ

。三十四

○うらちく

ナイ
ナイ

○うらえふ

ヒタス
ラニ

○う

なくし

ハヅカ
シイ

○うんず

アイサウツカス
セイキラ
ス石川雅望云うんず人

今も東國人ハ物ふあきたる
をウンジハテタと云る

○うかお

男女ふ通して
童形をう

○う

らやこかし

ゴドウゼニ
鈴屋翁云我と人とのうをうと
又るふ人のまされるるもをく我し同ト也

をうと
とバウ

○うつまの人

源氏物語湖月師説云うつま
ふる人といふことあり

○うつとく

アイラ
シイ

○うつとくむ

カハユ
ガ

○うまぞひ

ロツ
キ

○うらぶる

グニヤリト
シホタレル

○うら云

うらきびし
うらかきし
云のれのうらハ
心の中のことあり

○うつろふ

移へ花紅葉ハ
スガレル
子ル
本草ハ
色ガハル
人の心の
カハル
をもつ

か、部

かまてのけ

カ、ツテ
井テオ
セワヤカレル

○かて

率をア
ワレテ

○かぢけ

坐したる
かぢけ

○かざりいづ

居去出俗
もつ詞

○かかろもろひ

田舎通じノ
スギハヒ

○かまらちの

月居待

○かぞ塘

○かせき堰

の部

のくゑる

ヤカニレウ言タテル
又仰山ニシタテル

○のどええ

レヅ
メテ

○のどがのどやの

レヅカオダヤカ
コロレヅカ

○のふも

の賭 ○のづまがさー

逃ちち
またた

○のこ

き

秋の日の
暴風

○のへふす

偃の字をよめこのへはあへん
子ルへド。えの如くとま

○那もせふ云

野モセバント
庭もせふの下みく

木ノ部 **お** **め**
我を高くして人を驚しむるをいふ
めがすして令の意あり

おろごかー

病ナ
オク

○おひまどとん

行サキヲ
ウレナフ

○おろろす

我ハまねども人を
あとふのこす

○おもぎろひ

小児の人見レリ
人オメするを云

○おもてぶせ

ツラヨゴレ
フワイブン

○お

もておに

外ブ
ヨキ

おろかく云

分
ク云

おぢろけ

一通

おののぢ

各
テニ

おちけし

飢け
オモク

おもふし

おもふく

テ
オレツ

おもふ

ま

おれ

おま

お

バカ物

おれ

お

おもひ

まふし

思ヒヤリ

おふ

分
應ニ

おろか

大ヤウ

おろか

ヤウ

ムザウ

おどろ

仰山

おそ

おぞ

おぞ

皆同

大

表

扱

あまつ

あまつ

方

〇三十七

提の活佛ありとくく ○おぼしあず同格ニオボシメス
思ひ云思ひ云いとつふね多し ○おぼしあずは秋のおぼし云

おぼしおぼしを下小つはてんおぼし ○おぼしあずル ゴザ **お**

をささおをささるる ○思ひあがるキヲ
高ウ

モ **お** ヒキクルメ **あ** テ一続 **べ** た

らナシク **あ** テナイ **え** 思ひあがり **あ** 上ノオボシメレ

○おがえず思ヒカ **あ** ケナイ **え** 又世間ノオセハク **あ** 同上

○思へん存外 **あ** ヒト、ホリ表 **あ** ムキチホザリ **あ** ナコト

ナシカ **あ** ヒト、ホリ表 **あ** ムキチホザリ **あ** ナコト

かろかろらう ○およすけて小兒のつゝ知んヒト **あ** ナリテ子丑ガツイア

よすけオトナシヤカ **あ** ニ仰シヤル **あ** 小兒のコマビヤクレタ

事事 **あ** 小兒のつゝ知んヒト **あ** ナリテ子丑ガツイア

ああむのーくおむのーハ **あ** オモシロク **あ** スイタフウ

オ
三十八

○おもたぐし

面立あり、外中より心面伏せのり
らして、面おごしことつよ小同し

○および

及ビ
ゴレ

○おちどろ

大やうふるぶく
ちぬこうちあり

おほいか

大ザヤカエト
本小同し言へ

○おちどく

アドナウト
リシマラス

大どろの活語
小あり

○おぼえく

おぼろめくあり
トボチガホスル

○お

おほる
上と
同き

○おろの

大らう持しておろう
つまりておろう物さだ

大テイ 小して、あまりこころぬゆんがれ
ハ愚の心もふるく
オロソカ
ソロソコイ

○おろか

らざ

俗小云
小同ト

おぼろけあす

上と同きナニ
大テイ デナイ

○おこたる

病勢のゆるま
るをもよ

○おこころ

フラチ
アヤマ

リブサタ
ブサタノコトワリ
あやま
且 漢文を急状といふよそ心得べし

○おまきあびとる

お

年寄ラシ
イコワ子

○大とのごもる

ギヨレ
シナル

○大

殿ごもとおきそ

オヒルナツテ
鈴屋翁云花の
ちるを嘆ちるとつよが如し

○おもひごまふ

オモヒヤ
リガナイ

○おもひや

オ

アかし 常にもし心の外小思
ひうけち多死るをもも ○おやす 申し付
ルオホ

せ付ラ 取ハカ
ラフ ○おこちあふ ビツク
リスル

○おぼろのあし シカトシレヌ
コノモトナク
マナトホナ

○おぢ免のし シカトシレヌ
デブアシナイナ ○おのま ワレ
ラ

ワタラシ ワレラガ
拙者が ○おのづ こそひいざ
あふあり又

ソノハウ 存念ノ通ニ
存ブレニ ○おもふさまに ○お
ア

たち フニコンテ
ハダヌイテ
のれゆて馬
車より下りまふたとへる
細あり ○おも

やう カホ
ツキ ○おぎのる 掛ニ
買 ○おまひ及ぶ

ス井リヤウ アテタ
ガホ ○思ひ及ぶ

シアテル レウケレ
ガツク ○おぢ

レウケレ ○おもひあふ

チウケル ○おもひあふ

あす ゴレウケシ
ツケラレル ○清ぞたてまつる 方装束
メス

○おもひあふ 色ニケレ
ヤシラシツクス

オ

○四十

○おうな 老女ニ少女のをう
か小若ある初

○おとあ 年バイ
ナ入

○おもがく ハシ
マキラ面隠 おきて
定ハ

○おとあ 年バイ
ナ入

○おきま 定ハ
ハシ

○おとあ 年バイ
ナ入

○おとあ 年バイ
ナ入

○おとあ 年バイ
ナ入

○おとあ 年バイ
ナ入

○おとあ 年バイ
ナ入

○おとあ 年バイ
ナ入

○おとあ 年バイ
ナ入

○おとあ 年バイ
ナ入

○おとあ 年バイ
ナ入

○おとあ 年バイ
ナ入

く部

くす くハ具ハ俱ハ入をつき物
をもちたづきふるに皆云

くもで 蜘蛛手ニ又
雲路

くづをる 口入ルハ
世ワヤク
おきま
光くつ

く 月ノ雲隠

く たきて人

く かろれさる

く かろれさる

く かろれさる

く かろれさる

く かろれさる

く かろれさる

く かろれさる

く かろれさる

老女ニ少女のをう

むら

マキラ面隠

ハシ

口入ルハ

世ワヤク

おきま

光くつ

月ノ雲隠

たきて人

かろれさる

かろれさる

かろれさる

かろれさる

かろれさる

かろれさる

かろれさる

す 齋すく思ひこすハ心
小ヤレニサゲシム

く メイサイナ 隅カラ隅マデヤラズノガサズ
くまハ隈ホテカクハ不ふれをつふる

く エミミラ子ガアカヌトハキシミガナル
ニガクレイノコリ多イザンナ

く ドチラガドウトモイヒニクイ アセテ
ニナリニクイ モテアマレタコトヂヤ

く ニナリニクイ

く ニナリニクイ

べんじし

トリハ
レニクイ

くすし

佛汰クサイ
神サクサイ

く

だくごーきさる

コザクトシタ
ドモクダハ碑

くさくさ

ダメサレアヒダノアイサ
ハナレノツガマヒノイヒクサ

くしし

くハ屈ス
ハハハハ

一のツギ小同キガ屈
ルイ 肩身ガスホケテソル

くんず

窮ズハ困ナ
メイロクスル

くざり

あまさらりハイクニカ
今今人の如しと云ふを如何とかく

も件ハ志家の心うてく
ざりともよめざり

くれまどふ

愁傷の甚しくて
カクムチヤニナ

ルを
いふ

くづぶぢたなり

功ガ
テ井ル

くまむす

クサガ
ハエル

くまや

是ハヤの時之俗ホソリヤ
又サラバと云ふを又コレコカ

とよびうろこ
バもあさる

くじもたふれ

孔子も狂く生れ
タボケル義経記

弘法モフデノ誤
ツマヤヒナリ

くろそび

ロテ
ガウ

くると

あくと

朝暮

位みどし

座セキガ
ヒクイ

云

くつぐる

めでくつぐる
その物ぐるきをうま

ク

四十二

やまかゞび男ふ

心外ガル 心きス
ルキノドクガル

やよけれバ

ヨケイ
アレビ

やぶのさか

物思ひの暗
やぶのさか

やぶ

さこの
イシワ

やさしく

恥カレイイウビナ
打アガツテ井ル

や

さくさく

優美メ
カス

ま部

まいて

ホンニオ
カワレヨ

まこ

ふ
ともし

まほに云

ロクサマニ
ミ本式ニ

まろ

男

昔よ自稱廻りハゲともあつろろろあり今
世男あつバ此方女まろハコチヤとつふこと

まろ

かす
オろろ

まをゆ

カハユイ位ニ結構ナ
ワレンチヤバテナ風

ハヅカレイ
ウルサイ

まも

目ツキ
目見ク

まかあふ

トリツク
ロフトリ

マカ
ナフ

まねる

参上スル
酒食あり
ゴ着用アル
衣服あり

まかる

行あり
イタス
トホル

まさか

ムホ
ウナ

マ

マ

四十四

またさる

小児の遊びもの
やうなるものを云

またさる

が

ハ狂
又禍

枕

引コト
イヒクサ

云

云

又常云小

同

まぬぶ

口上をききあてふのべ又物の
有難をいふかたをいふ

まめ

レンジツ
ジツテイ

ま免やうい

レンジツニ思
ヒコシダ体デ

ま免やう

小
ウハ

アリヤ

ま免だつ

トクジツニ
モチコム

まさい

何ノ
ソノ

まじふ

メイワウスル
類敗トラチモナイ体ニナル

あまじふ
思ひまじふ

ハトホウニクレテ
ガムチヤニナル

まとぬ

クルマ座ノ
ヨリ合ヒ

ま

がろ

魂の形をあらハトて面影小見申るをいふ
又行たき町へりとして乃より出る魂をいふ

まつはる

マキツクニタシ
ウツイテ井ル

まつえりあふ

オツバサラズニシ
タシウナサル

まほろ

ロクサマデハ
ナケレドモ

云く
まぬ

ニスル
体デ

ま

マタホ
カニ

又の日

翌日

又の年

翌年

ま

源氏
物語

蓬生卷小見えうり。乳母
の母を母の母を未詳

イヒガ、リ
アヒカス氣

まけどろろ

上小
同じ

まはして

ナホ
サウ

まかりおろし

イトマ
ゴヒ

まろしひら

く 申レワ
ケスル

まがくし

サウク
シイ

まろと

キサ

まろづ

マ井九但一此方へ
糸る小いふ詞え

まろのが

る 糸りのがらあり
アガル糸上スル

まろけの物

引出
物

ま

さぐり物 モテアツ
ビモノ

まだま

ビロ

まが

し へまゆし
メナ

け部

けごか

けごりげのけご氣の字音小あらず。漢語と
自然小お通符合一たるけ下の七条皆同じ

けごほし けぢのー けと

ー うとまーく思え
るまかをさふ

けふくし

小くハ心かく
ーのゆー

○けざやの ハツキリ ○けざやぐ 上の詞を

○けあさる オサレテ ○げふ ナルホド

○けじし テキハキト ○けさむ ヤウスソブリ

○けいねむ ケブラヒヲシラセ ○けやけ 藪ハ

○けぢらめ ワカ ○けぞ 藪ハ

○けいめいす 字音あるべし。経営又敬命かどの字をあて

○けいねむ 字音あるべし。経営又敬命かどの字をあて

○けあがる 逆上 ○けちえん 掲烏くカクシ

○げせう あういふ ○けふ まこよりす

○けぬ キエル ○けつ ケスツ

○けぬ シヌル ○けつ ケスツ

○けぬ シヌル ○けつ ケスツ

○けぬ シヌル ○けつ ケスツ

○けぬ シヌル ○けつ ケスツ

○けぬ シヌル ○けつ ケスツ

○けぬ シヌル ○けつ ケスツ

○けぬ シヌル ○けつ ケスツ

○けぬ シヌル ○けつ ケスツ

○けぬ シヌル ○けつ ケスツ

ハあしハワルウニナイニクルニウモナイといふるを又將
ドてえりてけきりをもつて。即俗ニケニカラヌと云心あり

○けいめいす 字音あるべし。経営又敬命かどの字をあて

○けいねむ 字音あるべし。経営又敬命かどの字をあて

○けあがる 逆上 ○けちえん 掲烏くカクシ

○げせう あういふ ○けふ まこよりす

○けぬ キエル ○けつ ケスツ

○けぬ シヌル ○けつ ケスツ

○けぬ シヌル ○けつ ケスツ

○けぬ シヌル ○けつ ケスツ

○けぬ シヌル ○けつ ケスツ

○けぬ シヌル ○けつ ケスツ

○けぬ シヌル ○けつ ケスツ

○けさく

假装之ケシヤウ又意
慕之驚想カ懸想カ

○けくら

きよ
らき

唱へよよ
て誤せる人

ふ部

○ふりたる

云
云
ワザク
ミシ

○ふりさけえる

ツ
フ

トハルカニ見ヤル
ふりハ發
語さけハ遠ざけり

○ふびん

不便の文字あり
フツガウナ又キノ

トクナ不便あり
ふふ俗ハ憐む心小持

○ふるさつ

旧都
荒郷

荒宅あり
ハハのさふれり

○ふつか

トコエテ井ル
持

時俗語小同
フツ

○ふさぬ

取撥る
スルヒツタルメル

○ふさや

フツ
サリ

○ふさ

タクサ
ニニ

○ふく

つけし

ヨクダ
ウシイ

○ふくいとく

顔色のいとく
ろきをツク

氏又枕草
紙小あり

○ふさ

似合又
相應せ又

○ふ

くごむ

櫛けぐぬ髪
ボウク
たを云

○ふくよ

ブツ
カリ

ふーめふある

レホトナル 借
目ある

ふーめ

く バタ
ツク

バク 舟の舟きき又
を扇あどつうふ声

ふー

ふー 子カハ
リスル

ふー

厭きて又
すつる

ふー

ふすぶ ル
リニキスル
ヤキモチヤク

ふすぶ

ふすぶ

雪ノフ
キフリ

等こいむ カキゾ
メカク

等こいむ

ふみき

踏ス
エル

船よむ フ+

船ゴシ
ラ

船よむ

液ー船を
かるを

船よど 船の洋る
をいふ

船よど

部

んおどり ゴ
ロ

んおどり

こよふ

各別十各段
チガヒヤ

こー 子こーある

大ボコナ 大ヤウナ

こめし

上と何 こ

ことふる

ナシ申
モナイ

こ

ちー

ヤカマシイクダク
シイギヤウ山ナ

こち

風音の

音今 **ゴツナ** とふ
ハズレを音ふまゝとふ
○ **こうむ** 困むあり
ラヌヒシル
○ **こ**

ろつくを
キヲモム
セイツカス
○ **ころげ** ンキ
チ

ろもで
そでしそも夜あれ
バ同一ことをあり
○ **ころ** 度 此

評多
あり
○ **こし** 取ナス
スカススノメル
○ **こ** 度 此

○ **こゆ** 越ス
ろす
コサセル こんハコス ーむこも
ま自然の詞をハ使然の詞
○ **こ**

とあゝを
トテモソノ
クラ井ナラ
○ **これ** 云
云
ガカ

ノ去
ジヤ
○ **これ** コレガカ
ノ去
○ **こ** ンヤ
ウコ

リモ
ナク
○ **心** 待ドホナ 又物のナキありては
せぬんもあり 又俗小つこく
ウサ

心も有
○ **この** もかのも
もハ面あり
アソコヤコ
○ **こ**

て
かこつて
○ **こと** 傳言
云
○ **こ**

く
キヲタテル 用心スル
コノロカ
ケル 又常小つ小固一きるも有
○ **ころ** キガ
ユ
ルセヌ

○ **こ** ス
コハ
○ **こ** コル
ハ
○ **こ** 五十

コ

五十

ナニソト
イフト

こゝろある時

マサカ何事
ヅアルハ

ことば

れて

ナニカニ
ツケテ

○んのおし

オモヒナシ
キノミヘ

○ん

むきり

ムナサ
ワギ

○ことあしび

あしび
こへイキ

ことあしび

あしびありあしび
シラレカホソ井ル

○ことあ

小くし

ヤシメレスオクユカシイ
んやすしのくあり又受つ
のくくづひあるまあり又常云小同し

あ
○んをさむ

氣ヲ引
こメル

○ことささむばの

ワザト
バカリ

○んあしひ

キノツイタ
サリヤク

○ことく

仰山ナ
大ウチ

○ろろやり

子ビラシ
キノウ

○んを

やる

面白ウオボエルコレデ
ヨイ小心中ク思フ

○んあて

オシズ井リヤウ
アチガツホウ

○んをさむ

云
キノア
云ル云

○んやさるす

まひ

存念ニバイニ物
スイタスマヒ

○んゆく

存念ナム子
ガハレル

○んをさむ

キゲン
トル

○ことに耳たぐ

コ

。五十一

サシテ氣モカ、ラズ
キ、夕ウモ思ハヌ

○もも那し

新あきし申レズ
ニガナイ容易ナ

るんもありナ
ニノヲモナイ

○ころろやまし

コメレダウナムシ
ヤクシヤトスル

○ころろぶじ

キノドクナ
イタクシイ

○ん短し

キレシ
カナ

○んげきか

キニクハヌヲシヤツキカ死
りとも小思をもるを云

○ん

づ
ジレシ心カラ
ぶづの疾

○んの

心ノウ
ラナヒ

○ん

小入る
こいヌまをと思はるる今キニイル
とふ相これより出て特にならる

○こ

人
余

○こと

○こと物

外ノモノニ中人
ハ異カ人別ス

○このわど

コノセツ
此アヒダ

○こ

コトク
井サイ

○こまやの

メイ
サイ

○ことさし

ワガ

○こと

云 何れも小もあはれを取立てる
云 俗小キツトヨイカト云キツトの心

○に

オトガメ
ニアフ

○云

まころあひ

云々ノ
ジセツ

○ころろあせ小きく

耳ヨリテ一ニ思フ
宇治拾遺カ又えた

コ

腰居 井ザリ 著聞集

○こやさささ ワザ ○ことさささ ガ

トガ モノヲイヒダス ○こやささ モノヲイヒダス

○こやささ 葉及赤染衛門集 ○こささ コチガ

○こささ ハニル ○こささ コチガ

とさ 老人のあと ○こささ へたささ

○んをささ ムフ ○んをささ ベツ ○んをささ ムフ

くる 共小同 ○んをささ 共小同

○んげさ 心中 ○んげさ 心中

ぞと 何 ○んげさ 何

の稲 心 ○んげさ 心

え 部 ○んげさ 部

えあしび 一通テ ナイ ○えん フウリ ウナ ○え

んだつ アチヲヤルモ ツタイツケル えん小おをばしての女

身タレナミヨクよそふ ひいておとけぬると云 ○えうず フゾム要の字此 字モトムとよめり

○えせもの フラチモノ ハチモノ ○えぶの 古今長 哥にえ

えくろり 留浮の身 ○えさ ぬ云 イミミ イミミ ヨンド

コロナ え 下ぬ 変てえ得の意し 去ルガエイテキヌ

て部

てあしひ ムダ ガキ ○てうど 具道 ○てうが

調樂之樂の く あし ○てふ イミト云 えてんま

を ハミトハ ○てうず 調するこコヒラヘル 衣服をシタテル ○てづ

つ フチヤウホ ○てさざり テサ ハリ ○てあが 給仕 ニン

○てく 父 ○てず ささ 手ム ○てもた ゆく

テ

手ノタ
イ位ニ

○手もすまふ

手モヤ
スメズ

あゝ部 **あづめり**

有る有るの約
有りつゝミエル

あいに

あゝ

有時ハありのすさび小ニハ存生デ井ル之我
思ふ人ハありやあやとハマメテ井ルをり

○あぶ

す

はあ
かそく

○あさけ

朝明

○あさい

アサ
子

○あゝがふ

あゝハ争ふのあゝ不
かろへー

○あま

て云
云

親しこなるくまこ俗小まよ同一キこゆあり又
ワバエルホタエルの心もありあまハ甘ちるべー

○あ

らま

行末ノ
心アテ

○あゝかじめ

二ヘビロカ
ラカ子テ

○あゝびがこき

アツビ
アヒテ

○あゝ

仇うとまき又人よ
冠する魚人之

○あゝ

うハビのさまびがう
実のふく末のとほ

あゝ人

レヤウ
ワル

あゝ物

病の如くとうふ
くもろき物

あゝけら

ウハキラレイ
イタツラ、シイ

あゝ免く

上と似
る云

○あゝじん

外ゴ
コロ

○あ

いざれより

あま
様と注

○あゝ

セハシナ
イあり

のあて
う。赤洋

レフオスル本ハもの餅をふるふん故
に地ヲアビヤケテ物ヲサガス山も云

あきひ

あぢぢち

あ

あぢぢぢ
あぢぢあぢぢあぢぢのあぢぢ同

あぢぢぢ

あぢぢぢ
あぢぢぢあぢぢあぢぢあぢぢ

あぢぢぢ

あぢぢぢ

あぢぢぢ

あぢぢぢ

あぢぢぢ

あぢぢぢ

あぢぢぢ

あぢぢぢ

あぢぢぢ

あぢぢぢ

あぢぢぢ

あぢぢぢ

あぢぢぢ

あぢぢぢ

あぢぢぢ

あぢぢぢ

あぢぢぢ

あぢぢぢ

あぢぢぢ

あぢぢぢ

あぢぢぢ

あぢぢぢ

あぢぢぢ

あぢぢぢ

ア

五十六

あふりりりり

オハハラ
イタク

あてありあ

てをかあてやの

ウチアガウテ井ル
キヤレヤナ品ガヨイ

あふ

る
オチメ
ニナル

あづ

ワヅラウ
テ不快チ

ありくて

ダシトクラシ
テキタ其アムク

あづ

ザニナニフ
クアコリ多イ

あひ

あ

ナニナニチモ
ナイコチヤ

あひるく

ナニトナウムサト
ナニナハリ合モナク

あひふれ

アテニモナ
ラヌ心アテ

あや

ザガワル
イニグル

レイフシギナケシカ
ラヌイフウナ 法外ナ

あや

メイヨニニフシギニ
キドクニヘナナク

ケシカラ
ズキツウ

あふ

右ハあやと云後小ハあ
らヌヤあくと云ヤリク

あを

あへず

エ持コ
タヘス

あへず

云ニシマ
フセズ

あへか

子カラガオチタラチガアカヌセニモナクハリ合
ガナイ思ふるあふでフコウひかく思ふ時の

あへ

あへ

いと又のくておた
かふくよと云

あを

アソハシ

悲しき時又ハ感心するとの發語今
アソハシと云俗語ハ節感心するとのあをれあり

あを

ア

五十七

あゝあゝ

シカヘシ 宇治拾遺小入也今俗
アタニとよも師そのことなえ

あゝた

まる
レン規ニ
カハル

あふゆく

エシ
スカニ

あきれ

ま
トハウニ
クレバ

あつのはし

ムツカレイ アツクロレイ
ウザウサトレテウルサイ

あびぶちあー

世俗小アイタテナイとよ
れあり 漁氏物語孟津抄の紙

あ

やまら
ミソコ
ナフ

あやまらず

云
ニナガ
ヒナク

あ

やまる

源氏権柱いとほん地もあやまり
とん地そこちふとつふ小回ド

あやの

あゝゝ寝ずるまゝあやハ福津目を
あやつびともあやのころあり

あがり

世
代上

あけぐれ

あけんりしてハまづく
らくかる空をいふ

あ

このころ

あゝこのころとも思あまうて魂の力をををれ
又ハ身の家ををあられてまどいありく教をいふ

さノ部 さまのよめ

前世の
音縁

あそひ

管絃

さへらふ

オチブ
レル

さるハ

サテリ
レハ

云
云
副

其上云と一デ
ス俗語と同意

さ〜ぬ云

不避ありえさ〜ぬとも云
ヨンドコロナイミ
〇又さあ

らぬ
真外
○さかしら カシコ
○さくぐこ まのめ

ふあり サシムカヒヌナミダグムを
もつふ是ハ涙を著きたるあり
○さいあむ 折檻スル

ムガ
○さだ 定あり
○さごすだ 程カス

ヲコ
シタ
○さぶら 井コスル 伺候々井ル 御前ヲツトメル

語の心夫よりして出用もあるんかと伺候して居るゆふあり又
特して目上へ判して我身の居り有りとつふるをいふ細とあり後
ゆふ有りといふは

用る様ふあり
○さく さくろそきてと注ぐ

子持あり

せとく
装束スル
○さばらの 髪のすくなくま
○さく 細字音をさくか

ちあり 勿論
○さく 事改メテ
○さくの 云々

ガハミ
○さくの 物ツひさがふハ

カ
○さく 俗小サ

又コ
○云 云

れを 春されをハ
○さく ヨモ

サ

らぎ。本ハまろしき。あざと同一。施
らぎ。子。まろしき。あざと同一。施
サレドモ

レテ **さざれたむ** アジマ
ラコイ **さよ** 更深 **さぬ** 男
女

ともぬすむを云。さよ。さぬの
おのさハまろしき。あざと同一。施
さりり サレツカ
故障 **さ**

いらころろ。前ノ頃あり
先ダツテ **さるやう有て** 子細有
テ又あ

る柄と
も云 **さざえ** 學子問 藝術カ
の字音あり **さかく**

張る。さぬのまの
さ又めくまろし
云 **さる物有て** 子細論ノ
ノケテオイテ

さざのの フレホド 又ソレギリ 又形ノ如
クノ ちやくまろしき。あざと同一。施

よふ ツブヤキナガ
ラブラツク **さを** 正音あり
マツサテ **さち** ちやくまろしき。あざと同一。施

まづ部

まこゆ 申シ上ゲル 又申シ受テとつるをまきこ
えてとつる。源氏あげまきふ又えんり

まこゆ 云。こ。なるとつる。俗。カアゲ申ス。オ通。申ス
又上ケマス。トメマス。あ。と。つ。申ス。こ。ト

まきむくし 際。こ。目立テキツトシタ。る。
る。又。ハ。キ。ツ。ク。る。 **まきはや**

種三と云ふこと

の上上小 **ま**ハ 身小 **ま**りくし 美小 **ま** 立派ナ

まらめく ハデニ **ま**よら イキレ **ま**

らふ きーアあふあり **ま**あふ ハリ **ま**らふ

上小 **ま**びえ 少幼 **ま**あむ イヤレ **ま**すく

まこえん方あー 何トモ申レ **ま**よまば

あり すくよくと同一やくらうあふ **ま**よまば ツニヤニとあふるまきハホれ

清浄ニ **ま**やうぎく チトガヨイ 敬言策を詩

物事のすぢられてよ **ま**こえん の句のよれるを好

あむ 御辞退 **ま**かへき 機嫌あり **ま**く志

れごと カベソ **ま**げん アヒツガフ

まこと 云ふくはる初し **ま**えの 云てんあしまるうとち

へる 死入ヤウ **ま**

ゆ部

ゆえ

云云 カナラズ

○ゆあひの

ひろらん

○ゆ

きかふ

行かふんく
ユキチガフ

○ゆふつけて

日暮ニ
ナツテ

○ゆ

ゆし

大切ナルコト
大ツレタル事
あやふき事
あど小ほつふかハ忌
忌トあり。さるゆえふい
まろきんもあり。又す
がれたる

ゆをもち云時
ヒドイ
エニフイ
の心まり

○ゆえづきて

ありてと
りよごころ

ゆゑづけて

ゆえづ
せて

○ゆゑづし

ゆゑづし
云々

ゆくて

トホリ
ガク

○ゆくま加ふ

フイ

○ゆ

くりかく

思ヒガケナ
クフツト

○ゆゑづ

委細ノツケ
又あひあり

おみん得のあ
やくの

○ゆく

ユツ
タリ

○雪恥の志

う白

雪ガアキレハ位シロイ
雪ヲマカス位ニシロイ

○夕なえ

花よても男
女の良子て

も夕方小色の
まさるをえ

○夢のたぐち

ユメノス
グニチ

○ゆする

髪あふ湯ゆするまかる
まオグシアラハセラレル

ユ

顔を見合するゆゑく側
目小のこころをいふ

みノ部

耳やすし

耳ふんのおちつくをいふ
ナイ評判がややすしの後

いさづ

え

御奉

いさやび

風雅ノ
ミナ

いさやびを

風リ
ウ

いさびのちり

品ガ
エイ

いさぎのし

位の高
かゝぬ

いふ

いさむ

極光を腰膝
のかどまる

いさくし

子細ラ
シイ

いさづゆふ

ピンツ
ラユラ

いさをや

ホメナグリナ
ガラ見物スル

いさおろりす

耳及シダ程ニモナク見
テハアイソガツキル

いさむがし

ラリヂヤラチモナ
イラツシガナイ

いみド

ろく

身動きする
ムズツク

いみるのしほし

ヤカマ
シイ

いさを

行儀
タテ

いさををつくる

キツト守
ツテ弁ル

いさををふ

ジツトシラ
カホデヘイキデ

いさを

水
筋

ニ

をづくー 舟ノ通ルニル
シノ棒グヒ
○ 舟をづくを 伊ノ千
シマフ

又ハ世のかぎりとりつよ
同ー 一生ガイ死ルマデ
○ ことがらま 水ガク
れし
○ ことけ

したまはる 活まノホドヲオ
ウガヒ申ス
○ ことさく 宇治拾
送物ク

ふ声又衣のホ。
小ぬるく食し。
○ づをまろん 田小水ヲカケル又
庭など小せき入る

をま
云
○ ことつく ナジム 源氏紅葉賀よもきき人ハ又つひ
あふまて小とあるハ又つねづくハ佳づくハ

つく小同ト
○ ことおかせ終ふ コランシサダメヲ
レル 源氏あつー

○ ことけまある 古ゼシメ
シアガル
○ こと若 俗小つふ小
又見ル日

笑止デキノドクナト
りよとあるもあり
○ 男とふかる 出産するも
身ニツニナル

○ ことそめ ナイ
ミツ
○ ことふづ 皆あがらん
ノコラズ
○ 水

せき入る 川をせきて水を流
れ入らするも
○ こともせふ 道モ世
バシト

道一パイニ庭も
せ野もせと同ま
め手 志子と白ー又めくとも流りて
所見來の約し

志部志子 物の有状をいふ云辭まて 志子の意
又志くと志子 則形容辭し

志めやの

シツトリと符するハ人の有様也。ヒツソリ又
シツクと符するハ時并あり。シツポリと符

するハこそ
まざりあり

志里うごせ

カゲ
グチ

志る

俗語の
この外

小ハカラフまごシハイ
スル領知スル等のま有

志くず

俗語のまの外ハカ
マハ又とつふまごあり

あり俗もモカシラヌ
ふどつふ時ハばまごあり

志づんか

志づを辨らう
せハシナイキ

ツカハシツキ
ガユルせヌ

志くか

シツカリ本式又
いろめーたま

志の

カウスカクセルコラヘル又思ヒダスコヒシ
ガルシタフは二つハがより列このことむこ

志れ

バカ
モノ

志づく

水中小讀ル
ことあり

志どけあ

取シマ
ラヌ

志ふぬ

執念一きあり。字音もくくくくして
なくをえんて。和語のくくくくするハ。

装束するをまご
どくとつふ教も

志も

此て小人のまハたろへハさ
ふ折一キ云ハ折モアラ

ウニコレナヲリニサシアハ
セテとつふやうふるまご

志くむ

物もまごさだら小兒様
むるま又ハたしうに

とつとつの一つをいふ。流の字をよめるハ
まごむる方々まごハまごまごかのまごくまご

志くころあ

す
シモツ
ラカス

志む

キム小兒の陰をまごといひまご
らとつふあり物あるは同まごあり

志 著きし證據ありて明白なるる兼ていひ思ひ
しゆのたがふぬをアそいひしちるく思ひも

志とくに 志とくに

志む 我物

志ふ 古疾あり

志 志

志のふ 志のふ

志を 志を

志 志

志 志

志 志

志 志

志 志

志 志

志 志

志 志

志 志

エ

六十九

志 志

志 志

志 志

志 志

志 志

志 志

志 志

志 志

志 志

志 志

志 志

志 志

志 志

志 志

ひ部

ひとすら

ヒトザラ
ムシヤウ

ひとこち

ヒト
スヂ

ひ

とろろ

ひとろろともあり。肩子もあり。又人笑をせよともあるへい

不外聞
人だ

のめ

ヒトダマシ人を糲小思
たれらのこちををりふ

ひぐらく

口を動かす
口タ、ク石

川雅珍云、ガをうご
かすもつふあり

ひとぶるに

ヒトスヂニ
ムシヤウニ

ひ

ふるん

一筋ニム
イキナ心

ひたふるんある物

ムホフ
ワサウナ物

ひきざ

文の封じめ
のち

ひと

外聞
ル

ひとふ

ヒグルヒイ 上小似る相
こころハ婆形のををりふ

ひと

ざん

一段
人だえす

人ソバエス
枕草紙

ひと

ひら

ドチラゾー人
タレゾヒトリ

ひのもの

ヒン
ブツ

ひのひ

ご

ヘニナタ
チヂヤ

人ぎや

世間ノオモ
ハクガハツ

イカシ

人げ

身スボ
ラシイ

ひと

セ

〇七十

とひ
グイ
ヤツ

○ひととせ 先年

○ひとと夜 先日
ノ夜

○人が 俗語
フ

○ひとけ 直のさむい
んのおうらみ

○人小 バツトメトリ
ニマリガナイ

○ひ 直のさむい
んのおうらみ

○ひと 直のさむい
んのおうらみ

○人小 バツトメトリ
ニマリガナイ

○ひ 世間サニヲヤル
ワキ合テツトメル

○ひと ニハカ雨ハ袖をうが
す故小臂登あめ

○人小 獨グキ
キク

○ひ ニハカ雨ハ袖をうが
す故小臂登あめ

○ひ ニハカ雨ハ袖をうが
す故小臂登あめ

○ひ ニハカ雨ハ袖をうが
す故小臂登あめ

○ひ ニハカ雨ハ袖をうが
す故小臂登あめ

○ひ ニハカ雨ハ袖をうが
す故小臂登あめ

○ひ ニハカ雨ハ袖をうが
す故小臂登あめ

えと
よ

も、部

もーハ アルヒハ又ハ漢文読小
是をもーくい

○も トリアツカヒトリムケ
アレラヒトリ立ヤウ

ひ シモツ
ラカシ

○ひ トリアツカフトリナヌトリマ
カナフ又其ふりをすをも云

○ひ トリアツカヒトリムケ
アレラヒトリ立ヤウ

○も カチフ又其ふりをすをも云

○も カチフ又其ふりをすをも云

○物 カチフ又其ふりをすをも云

か カチフ又其ふりをすをも云

○物 カチフ又其ふりをすをも云

○物 カチフ又其ふりをすをも云

○物 カチフ又其ふりをすをも云

○物 カチフ又其ふりをすをも云

思ひまねる人

物事ヨウガ
テニシタ人

云

云 物の旅

一

ラカ 物のす

何スル 何と定めざるして前後の事体小
てくのおのづから心得らるる事但し國小よ

アミテハ今小
も物とつふ

もの

心核小ハあちまききつををと人
を恨むる事この詞をイカミシイ

ドウヤラシイ 物と思ふハキザハリニオモフ
あり。物しとらるるを 目ザハリニオモフあり

物

モツタイガアル
ゼニメガアル

もの

心ガスニ
又イヤキナ

もの

むつこの

ムサクサト
シテ井ル

もよわす

サイソク
クスル

ものげ

ゼニメガナイ 位ガナ
イ ぬじのく

もの

けて

人の事をりし時ハトリタテシコシテ 我身の事を
りし時ハタシカシツ、シンデ又ハモ子コシテ

もの

どく

ア、デハナイ
ト批判スル

もの

イカバレイ 俗小ハラス
キガマカヌハガユイト

りふり小のこつへど
それ小かぎし奴詞

もの

子カラサツバリ 漢語の全小
あさきり。ちの字を訓ハあこ

もの

花や枝葉ををも
づれたる本あり

もの

あ

ロガワ
ルイ

もの

キ
ジ

もの

とろも

トモ

○もあう

モウタ
タナカ

○もめくけ

ナニヅ
タリ

○物のひめ君

ドコヅノカ
ヒメサニ

せ、部

せのい

バニヨ世ノ中
世間一メニニ

○せめて

俗小云不同きもあり
又近くせまらふ又あひ

てがせうし出
スんもあり

○せくらぎ

小さく浅き流れ
ありせ、ナギ

○せ

せ 見え人
と云ふ

○宣言がき

代筆俗小亦せが
キと云ふも是あり

○せ

うそこ

書簡口上
アシナイ

○せろえろ

ユサニ河せろ
えろハウ。教

生

○せらに

シキ
ウテ

○せ

川の瀬小譬へて場所時
節等を以事あり

○せんすべあ

シカタ
ガナイ

す、部

すゝろく

ワケモナイムサトシ
タマヂヤメウサウナ

すゝろく

ムサトメ
ツタニカ

モハズレラズ
と本ハ同のほべ

すゝろく

あまりメウサウふらふ
あふがーたぢらふらふ

セス

すゝろはし

ムサトア
ハレナ

すすきくし

ス井キヨ
ウラレイ

すゑのほし

上小
同一

すすきこもれ

好色又風流人
すべて物ずれ

あゝ人
をふ

すすきこも

ス井キヨウワ
ガモノズキ

すすく

色ヲ
好ム

すぢたゝある女

色ギガアツテ
ジダラクナ女

すすくよの

ツニヤレトレテ井ル
レヤウキリトレテ井ル
氣丈十人の心
す
のこはきふ又ハ山のけはしくきりてたつやうあるを云

くよけん

レツカリレヤン
トレタルキレツ

すすくくと

ズン
ズト

すすまふ

シリゴミシロシタイスル
又隅を小角小取て
人をこびに敵對するハ俗小もつ相心

す

のこ

板縁 上古ハ簀子あり
うぬ世小ありても物づあり

すすまふ

ルセ
す

さび

ス井キヨウ
ナグワニ

すすさめ

賞翫せ又 助もすさめ
かる人もあし又人小又す

てられしものをすきめられし
と云ハ後小轉りたるあり

すげあ

ムタ
イニ

すぎく

次々シダクニ
ジユクニ

すさまじ

不與ナフ
キゲンナ

モノスゴイ
セハシナイ

すすのくし

テキハキ
キククト

すすがや

ス

〇七十五

近刻書目

離屋鈴木先生著 雅語譯解拾遺

嗣出

同 玉小櫛補遺

鈴屋大人乃孫氏お決の注釈のそれと
るを補へるなり

同 言語四種論

之評乃口授小列まゝ
傳あり

同 離屋學訓

學問の大意を傳等をめぐる
る書あり

加藤磯足先生著 校異土佐日記

法中異因を校訂して清治并改書を
くまへらまゝの書あり

市岡猛彦先生著

同 追考

一冊 亦書よも水くは改并清治先生の考へ
ともと廣く集めらるる書

天野信景先生校補 市岡猛彦先生校補

塩尻蜜栲繩

初編五冊 二編五冊

近刻

伊原よ秘書すろ下の塩尻の四本数十部を集め校訂してあり
くは改書をくまへらまゝの書あり 一篇五冊の如くして追くまへ
せよは書多しといへども廣大なる書あり

京都寺町通五條上ル

天王寺屋市郎兵衛

文政四年 春 書林

尾州名古屋本町拾丁目 美濃屋清七
同 本町拾丁目 萬屋東平

